



TITLE:

太陽の意義と月の美：宇宙の真相第五篇

AUTHOR(S):

小野, 尚次

CITATION:

小野, 尚次. 太陽の意義と月の美：宇宙の真相第五篇. 天界 1923, 3(31): 229-231

ISSUE DATE:

1923-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159891>

RIGHT:

五十二卷にあり我々が輻射點を決定した場合新しいものかどうかを決定し其の群の歴史を知るにも最有力たる資料である。

流星觀測の最も盛んなのは英國で米國にも近頃發達して來た。殆んど總て天文を職業として居ない素人の努力である。

英國では有名なデニング氏を指導者として毎月 Observatory, Nature 等に有益な觀測が發表されて居る。英國天文協會の流星觀測部は現在は Miss Cook 等によりて指導され一年數回輻射點の決定されたもの大流星、二人以上に觀測された流星等の報告があり同會の流星部 Meteoric Section の記要は特に重要なものである。しかし會員は約十名である。米國では Leander Mc Cormick 天文台長オリビエル C. D. Olivier 氏が主となつて約十名の同好會と共に觀測して居られる。ドイツでは Sonnenberg の Hoffmeister 氏が十年來觀測を集めて居られる。

觀測は正確にやるには熟練を要するが方法が簡單であり又肉眼のみで器械を要せぬから少し星を知つて居る人であれば唯でも出来る仕事であるから素人の特志家に是非やつて頂きたいのである。星圖は何れ出来るが觀測用紙は觀測部で作つてあるから必要なれば葉書で通知して頂きたい。

宇宙の真相第五篇

太陽の意義と月の美

(三〇)

小野 尙 次

太陽の意義

「悟りを得たいと思ひますが、どうしたら悟れませうか。」尋ねた時、名僧は答へた。

「君は自分といふものが分つてゐるかね。」と。自覺し、自力に依る創造のない所に悟りはない。

宇宙が知りたい、星が見たいと望む人で、

「太陽が一つの立派な星であり、それをあり／＼と眼の前に見る幸福な地位に我々がある」といふことを自覺してゐる人が幾人あらうか。恰も眞實の思想が内に生れ、神が内に住むにかゝはらず、徒らに外に求めて日もなほ足らざるに似てはるまいか。

灼熱せる太陽、それは男性美の顯現である。

太陽には燃ゆるが如き意志がある。

量り知ることの出来ない精力がある。

其處には永遠に滅せざるの姿がある。

太陽を生みすれば、地は死である。

太陽に意志がある云はば、それは科學を學ぶ者の言ひしては不穩當ではないかとの疑も起らう。然らば「太陽に意志がある」は如何なる意味であるか。

自然と人間との對立の有様に於てのみ自然は實在である。自然科學的客觀的の見方は上に云つた對立の状態から人間に關するものを取り去つた見方である。即ち一面的の機械觀である。即ち客觀といふことは完全なる見方から一部取り去つた一面的の見方である。かゝる一面的の見方に於ては太陽は無生物であらう。だが一面的の見方に過ぎなくて、眞の實在としての太陽即ち完全な見方に於いて見られたる太陽は生きてゐる、太陽には意志がある。即ち吾人と對立の状態に於て見られたる太陽、それは立派に意志を持つてゐる。それは人間が自らの意志を太陽に投影したものではないかとの疑も起らう。然しながら太陽と人間と對立の状態に於て生じた意志といふものは太陽の意志でもなければ人間の意志でもない。太陽と人間との對立の状態に於て兩者を通じて貫き流れ出づる一つの意志である。然も其の意志が人間に依つて直覺され、意識され、知らるゝのである。太陽に限らず宇宙に對した時もそうである。即ち云はん。

宇宙には一つの意志がある。

宇宙の意志は人間に直覺される、だがまだ人間には知ら

れてゐない。この宇宙の意志を知る人こそ眞實の宇宙把持者であるが、此は永遠の謎である。

次に「其處には永遠に滅せざる姿がある。」と云つたが此も科學を學ぶ者の言ひしては不穩當に聞えるかも知れない。然しながら其の意味は次の様である。

太陽は日々多くの熱量を出してゐる。然も少しも衰へないで太古から其姿を持してゐる。だがそれを云つたのではない太陽の壽命は人間の生涯に比べて遙かに永い。だがそれを云つたのでもない。またアインシュタインの言つてゐる様に「世界は全てのものが飛び去つて空虚になる心配はない、そのわけはエネルギーも物質も無限大に逸し去ることは出来ない、何となれば空間は無限大でないから。」と云つた様な意味でもない。又我々が永遠に生きたいといふ欲望を太陽に側して述べたものでなければ、萬象は永遠なるべきであるといふ當爲を言つたものでもない。即ち本當の意味は「太陽と吾人と對立の状態に於て其處に貫き流れる意志をしかと把持した時、其灼熱したる男性的意志こそ時間空間に關係なく最も確實な永遠的實在として最高の意義を持つてゐる。」といふ意味であるのである。

多くの恆星の中には太陽の何倍、何十倍等の質量を有し、太陽より遙かに大いなる光輝を放つ星もあらう。だが自然と

吾人ミ對立の狀態に於て最も優勢なるものは太陽である。即ち形象界の王で太陽はある。ニイチエが太陽を超人の象徵として取れるも宜なるかな。觀念實在論に依る世界のものは今の考察の中には取入れてない。たゞ太陽は形象界の王者であるといひ得る。之こそ太陽の有する最終の意義であり、最高の價值である。而して再び云ふ。太陽には意志がある。燃ゆるが如き意志がある。

月の美

月の美は樗牛によつてたゞえられた。亡き母の面影、失はれたる愛人の死のほゝろみにも似たる月の姿こそは哀傷の象徴である。月の美、そは所詮女性的の美である。

蘆花をして『此のほの白い水の様な夜の底によもすがら寤めて、體はミイラ、心は未生以前のさざ波も立たぬ無念無想の澄み切つたものになつて「アブラハムの在らざりし先より在る」吾をはつきりと觀た。』云はしめた月夜の美は心に眞如の月を浮べ、身に清淨の黒衣を纏はす虚無の天使である。

日蓮が時の執權の迫害にあひ、「我が肉は八裂きにさるゝこも今宵の月のみは眞如の姿を宿してゐる」云つたその月は灰色の思索の世界から自由なイデー(Idee)の世界に靈を遊ぶす契機ではあるまいか。

科學は「月は地球に屬する衛星で、死の土塊に太陽の光線の

(三二)

光線の當つて反射して光るものだ」ミ説明する。だが此によつて月の美、月夜の佳景は毫も傷つけられない。恰度アインシュタインの宇宙有限觀によつて宇宙美は毫も汚されないミ同じ様に。何んなれば藝術は不滅だからである。

あゝ 月よ 月夜よ

卿は媿き罪惡の隠し所であつてはならない。

美の洗禮であり、智の解放でなくてはならぬ。

太陽の下にあつて激しき勞役に服する者に取つての唯一の聖母の懷であり、認識の泉でなければならぬ。

太陽よ輝け、月よ照れ、

人々よ働け、また憩へよ。

而して永生を得よ、徳により、智により、靈により。

(一九二三、四月)

*

*

*

*

人心の思想は無數の太陽の運動に勝る。

R・A・ブログター